

プログラムの概要

本専攻は、農学研究科で唯一の文系専攻として、国内外の食料・農業・農村について、社会科学の視点から教育・研究を行っています。食料・農業・農村にかかわる生産、加工、流通、消費、貿易を対象に現場を基軸に、個別の生産主体や行政、農業関連団体、金融や食料関連産業の分析を含めて総合的に学修します。21世紀に世界が直面する諸問題の解決に貢献できるように、高度な知識と広い視野を併せ持つ人材を養成する目的でカリキュラムを編成しています。

修了認定の基準（ディプロマ・ポリシー）

以下の学修・教育目標に掲げた知識、能力を身に着け、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与します。

（知識）

- (A) 農業経営学に基礎を置き、高度な知識を有し、問題の解決能力を持って社会に貢献できる専門的研究者を育成する。
- (B) 経済学・統計学に基礎を置き、高度な知識を有し、問題の解決能力を持って社会に貢献できる専門的研究者を育成する。
- (C) 農政学・地域社会学・農業史に基礎を置き高度な知識を有し、問題の解決能力を持って社会に貢献できる専門的研究者を育成する。

（能力）

- (D) 各専門分野で演習を行い、共通理解を深めるとともに、研究成果を伝える能力を高める。
- (E) 各専門分野で研究を行い、研究成果を蓄積し、修士論文の基礎を構築する。

履修条件（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

- (1) 社会科学の研究を行う基礎的な科目を修得している人
 - (2) 高度な論理的思考能力を有し、食料・農業の社会経済問題や農村地域の生活に関心がある人
 - (3) 現実社会の中から学ぶ意欲とコミュニケーション能力がある人
- これらを判断するために、以下のような基本方針で入学者の選抜を行っています。

2. 入学者選抜の基本方針

大学卒業の要件をふまえて、研究を履行できる基本的な学力と思考力を備えているかを判断するとともに、論理的な思考力、社会への関心、学修・研究意欲なども考慮して評価します。

学修・教育目標を達成するためのカリキュラム方針（カリキュラム・ポリシー）

講義系科目として①経営学の理論と応用②経済学の理論と応用③農政学・地域社会学・農業史の三つを柱として編成しています。

また、講義系科目に加えて、④ゼミナール形式の演習と⑤実習系の科目を2年にわたり行い、現場重視で、時間をかけた研究を履行し、その集大成として修士論文を作成する点に特徴があります。「自らの意思で学び、自ら思考する」能力を培い、高度な知識と広い視野を併せ持つ人材を育成するカリキュラムとなっています。

農業経済学専攻 カリキュラムツリー

		1年次		2年次		学修教育目標
		前期	後期	前期	後期	
農業経済学科専門科目	講義形式	農業経営学特論 I 農業経営学特論 II 農業経営学特論 IV	農業経営学特論 III			農業経営学に基礎を置き、高度な知識を有し、問題の解決能力を持って社会に貢献できる専門的研究者を育成する。
		農業経済組織学特論 II 農業経済組織学特論 III 農村社会構造学特論 I 農業政策学特論 II 農業政策学特論 I	農業経済組織学特論 I 農業統計学特論 I 農村社会構造学特論 II 農業史特論 II 農業政策学特論 I			経済学・統計学に基礎を置き、高度な知識を有し、問題の解決能力を持って社会に貢献できる専門的研究者を育成する。
	ゼミ形式	農業経営経済学特別演習 I				農政学・地域社会学・農業史に基礎を置き、高度な知識を有し、問題の解決能力を持って社会に貢献できる専門的研究者を育成する。
	実習系	農業経営経済学特別研究 I		農業経営経済学特別演習 II		各専門分野で演習を行い、共通理解を深めるとともに、研究成果を伝える能力を高める。
				農業経営経済学特別研究 II		各専門分野で研究を行い、研究成果を蓄積し、修士論文の基礎を構築する。